

部活動 特別後援会報

京都府立
西舞鶴高等学校
部活動特別後援会

後援会の皆様には、日頃本校の様々な活動に格別のご理解とご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

皆様ご存じのとおり、本校は舞女・舞中の歴史と伝統を引き継ぎ、文武両道に優れ、先生方の熱心なご指導のもと、長年にわたり京都府北部を代表する高

校として様々な分野で成果を挙げております。

このことを卒業生として大変誇りに思うとともに、いつの時代も様々な活動に励む生徒諸君に心からの声援を送るとともに、関係者の皆様にありがたく感謝申し上げます。

ところで、最近の西高生の様子についてであります。現役生徒の活躍の様子については本館正面の懸垂幕と国道側体育館の窓側に活躍の様子が紹介されております。また、卒業生の活躍については新聞紙上で紹介されることも多く、新聞を拝見するたびに、さすがに我が同窓生とうれしく拝見しています。

時代は昭和・平成・令和と流れ、昭和の時代に高校生活を過ごした私の母校に対する思いも年々薄れていますが、その中でも私にとって忘れることのできない出来事は、昭和四十七年の夏、高校野球京都府予選で、母校の野球部が京都府優勝を成し遂げたことです。当時私は職に

就いた頃で、この日球場に駆けつけることはできなかったのですが、終盤なんとかテレビ中継に間に合い優勝の瞬間を目にすることができました。優勝の喜びもさることながら、それ以上に試合終了と同時にセンターポールに校旗が掲揚され校歌が流れ、スタンドで校歌を斉唱する生徒・関係者の姿がテレビ画面に映し出されると、私の目からも堪らず大粒の涙が溢れ、テレビ画面に向かって懸命に校歌を謳う自分がいました。最終的には京滋大会で滋賀県代表校に敗れ甲子園に出場はなりませんでしたが、このことは、同窓生にとっても忘れられない大きな出来事であると同時に、母校の様々な活動が学校に活力を与え、在校生をはじめ、教員、保護者、そして多くの同窓生に爽やかな感動と熱い思いを届けたように記憶しています。

一昨年の秋、双鶴同窓会東京支部総会に出席した際に、当時選手であった四名のメンバーの方から優勝した試合の様子が話され、あの時の熱い感動を思い起こすことができました。あれから五十数年が経つというのに、昨日のことのように思い出させる母校の素晴らしい出来事

は、同窓生として母校に対する誇りと感謝を新たにする機会になりました。いつの時代も生徒諸君がそれぞれの持ち味を活かし、高い目標に向かい、切磋琢磨しあいな

ごあいさつ
校長 田邊 仁 司



部活動特別後援会の皆様には、日頃から西舞鶴高校の部活動への多大なる御理解と御支援を賜り、心より感謝申し上げます。

創立一一八年の歴史と伝統を誇る本校では、校訓の「究理・尚志・敬人」、第一体育館前の大江季雄選手像の台座に刻まれた「努力と友情」、創立一一一年を機に掲げられたスローガン「夢をかなえる場所がここにある」など、大切に語り継がれる言葉があります。それらの校風に支えられながら、生徒たちは文武両道・文芸両道を目指し、「勉強も、部活も、全部。」と頑張っております。

がら活動する西高生の姿に大きな期待を寄せるとともに、益々の活躍を願っています。

は、囲碁将棋部の上林澤さん(三年四組)が「第四十九回全国高等学校総合文化祭囲碁部門」の団体戦に京都府代表選手として出場し、全国大会において準優勝という成績を収めました。上林さんは、「第四十九回全国高等学校囲碁選手権大会」にも出場を果たし、二年連続での二つの全国大会出場となりました。さらに、第七十二回近畿高等学校バドミントン選手権大会、第五十八回京都府高等学校ユース陸上競技対校選手権大会、第九回近畿高等学校新人水泳競技大会に合計七名の選手が出場を果たしました。また、特に文化系部活動のこともありますが、地元から要請を受けてイベントな

どに参加することが多いのも全
日制部活動の特長と言えます。
通信制課程には、陸上競技部、
バドミントン部、文化芸術部が
あります。活動時間は少ないの
ですが、今年度は、第六十八回
近畿地区高等学校通信制課程体
育大会のバドミントンの部に三
名の選手が出場し、団体第四位
という成績を残すことができました。

私が部活動に期待すること
は、競技力の向上や健康の保持
増進だけでなく、コミュニケーション
能力や責任感、協調性、
失敗や困難に負けない力などの
非認知能力の育みです。非認知
能力は、学年を超えた交流、他
校の生徒との交流、目標達成の

ために仲間とともに重ねる努
力、集団での行動などにより身
に付けられるもので、学力と同
様に大切な力です。また、生涯
にわたりスポーツや文化に親し
む態度の育成が、余暇の充実し
た過ごし方やストレス解消、健
康意識の向上（生活習慣病など
の予防意識）につながることに
も期待しています。

今後も西舞鶴高校の部活動が
さらに活発になり、学校のホー
ムページや本館国道側に掲げる
懸垂幕などで成績を報告できま
すよう努めてまいります。引き
続き、御支援をよろしくお願ひ
申し上げます。



心構えこそすべて

〜考え方で変わる〜

保健体育科

渡 辺

勇

部活動特別後援会会員の皆様
には、日頃より本校部活動に対
して、格別のご理解とご支援を
賜り誠にありがとうございます。

今年度、原稿を担当します渡
辺と申します。私は、中学校保

健体育科教諭として二十一年間
勤め、今年度より高等学校へ着
任致しました。中学校では教科
指導と生徒（心づくり・人づく
り）指導に努め、部活動では女
子バレーボール部顧問として、

多くの生徒や指導者、保護者と
の出会いを通して、多くの経験
と学びを得てきました。本校で
は、男子バレーボール部顧問を
勤め、新たな出会いと学びを大
切にし、よりよい部活動運営と
選手育成とは何かを模索してい
るところです。

さて、プロレスラー 棚橋弘至
をご存知でしょうか。彼は、新
日本プロレス社長兼選手で今年
の一月四日東京ドーム大会で開
催された自身の引退試合にて、
会場を超満員札止めにするこ
とを夢とし、それを達成（四万六
九一三人動員）させた人です。

棚橋選手は、自らの競技その
ものや自団体の人気低迷した
時代においても自らが志したも
のを信じ、踏ん張り、悩み苦し
み、貫き通した結果、爆発的な
人気とブームが再燃し、上昇さ
せました。自己紹介の際には自
分が「百年に一人の逸材」であ
ることを伝え、試合後に労いの
言葉をもらう際には「生まれて
から一回も疲れたこと無いか
ら」と答え、勝利を収めた後には
「会場の皆さん、愛してくだ
す！」と愛を叫びます。

物事に対するその人の捉え
方、見方、考え方が心構えだと
考えます。単なる「気の持ちよ

う」ではない。それは世界を解
釈するための「レンズ」であ
り、行動を引き起こす「設計
図」である。同じ困難に直面し
ても、それを「進む道を阻む壁
」と見るか、「自分を鍛えるため
の階段」と見るか。このわずか
な解釈の差が、数年後には埋め
ようのない大きな差となって現
れる。そして、才能があるから
成功するのではない。環境に恵
まれてから勝てるのではない。
歴史に名を刻む者、逆境を
跳ね除ける者に共通しているの
は、ただ一つ。何が起きようと
も揺るがない、圧倒的な「当事
者意識」と「不屈の心構え」な
のではないのでしょうか。技術は
学べる。知識は蓄えられる。だ
が、それらを動かす「エンジン」
である心構えが劣っていれば、
どんな高性能なマシンの如き才
能も、ただの鉄屑に過ぎない。

逆になどえ今、武器は何もなく
ても、「絶対に成し遂げる」と
いう覚悟さえあれば、道は自ず
と開かれる。世界は本気で挑も
うとする者の前では、その姿を
変えるようにできていること
でしょう。

東京ドームでの引退試合後に
は、「なりたくて、なりたくて、
なりたくてね。三回目入門テ

ストに受かって、二十六年間い
ろんなことがありました。ブー
イングもあつたけども、たくさ
んの方にプロレスを見てもら
う、楽しんでもらうというもの
を作り出すことができました。これ
からは社長として、いま以上の
新日本プロレスに大きくしてい
くことがこれからの僕の夢に変
わりました。」と述べています。

溢れる情報と便利なツールの
中で、いかに自分自身の軸（ア
イデンティティ）を確立する
かが問われる高校生に、夢の実現
に大切なよりよい「心構え」が
身に付くよう尽力して参ります
ので、今後ともより一層のご声
援の程よろしくお願ひいたしま
す。

参考文献:

『週刊プロレス 棚橋弘至
引退記念号』
（ベースボール・マガジン社
二〇二六年一月）



仲間とつながる 時間、空間

通信制副校長 武内 勇

部活動特別後援会の皆様、日頃から、本校の教育活動に御理解、御支援をいただきありがとうございます。

二つのステージ発表（演劇、音楽）と展示部門での絵画作品で、参加者を大いに魅了しました。

今年度、通信制には、陸上競技部、バドミントン部、文化芸術部を設置しています。各部とも、限られた活動時間ではありますが、それぞれの目標に合わせて楽しく活動しています。

また、上記の両丹高等学校定時制通信制総合体育大会で、ソフトバレーボールチームが、三年連続の優勝を果たしました。年ごとに少しずつメンバーが変化しながら、素晴らしいチームワークを発揮しての三連覇でした。

陸上競技部には二名が在籍し、各自のペースで熱心に活動を続けています。

さらに、京都府高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会で、本校代表生徒が優秀賞に選出されました。合わせて御報告いたします。

バドミントン部では八名の部員が活動し、普段の練習で培った力を大会で発揮することができました。まず、両丹高等学校定時制通信制総合体育大会において、男子チームが三位入賞を果たしました。さらに、七年ぶりに出場した近畿地区高等学校通信制課程体育大会でも、同じく男子チームが四位と健闘しました。

これからも、穏やかで明るい雰囲気大切にしながら、仲間とつながる大切な時間、空間としての部活動を継続していききたいと思います。

文化芸術部は、彩雲祭（文化祭）に向けて地道に準備を重ね、



【令和7年度 通信制活動報告】

- 【9月13日（土）】 令和7年度 第76回両丹高等学校定時制通信制総合体育大会
ソフトバレーボール 優勝 宇野聖矢、浦川博司、杉山訓崇、森本菜夢、吉岡築玖
バドミントン男子 第3位 浦田蓮生、中原斗真、森本幸輝
- 【10月25日（土）】 第68回 近畿地区高等学校通信制課程体育大会
バドミントン男子 第4位 浦田蓮生、田野島想一郎、森本幸輝
- 【9月11日（木）】 令和7年度 第21回京都府高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会
優秀賞 井川斗偉



運動部

文化部

令和7年度 部活動顧問紹介

野球	ソフトテニス	バスケットボール	陸上競技	バドミントン	バレーボール	サッカー	卓球	ソフトボール	剣道	柔道	水泳	テニス
新谷 俊行 白井 俊博	遠藤 生 本田 隆貴 川上 顕広	兼田 真由美 本郷 萌子	岩佐 幸葵子 竹下 純隆	永井 国浩 村上 亘	吉村 朗甫 田村 繁人	長田 幹雄 田中 翔太	荒田 博隆 大西 慎市朗	下田 馨介 中井 巧也	蘆田 悠 奥野 千恵	川端 茂大 （部活指導員）	大塚 朋代 奥野 千恵	小林 悠陽
吹奏楽	料理	パソコン	放送	美術	ボランティア	写真	囲碁・将棋	茶道	演劇	WES	自然科学	探究
三浦 良樹 蘆田 悠	中場 優衣 栗山 真美子	中場 優衣 田村 繁人	浅田 和範 谷口 美穂子	梅原 みちる 兼田 真由美	栗山 真美子 本郷 萌子	大西 慎市朗 池田 ありさ	小栗 美由起 棟方 良	奈良 井沙織 仲井 千恵	梅原 みちる 谷口 美穂子	小栗 美由起 藤田 真菜美	川上 顕広 池田 ありさ	竹下 純隆 大塚 朋代

令和七年度 部活動報告

バドミントン

仲間がいたから

二年 谷口莉愛



私は小学二年生の頃からバドミントンをしていて、始めた頃はただ楽しいという気持ちだけで、練習していました。でも学年が上がるにつれて練習がきつくなり、結果も思うようになりませんでした。結果が思うようにならず悔しい思いをすることも多く、努力しても報われなさと感じる時期や大切な時期に怪我をしてしまい、このまま続ける意味はあるのかと考えることやバドミントンと向き合うことの難しさを感じたこともありましたが、それでも続けてこれたのはバドミントンを通して出会った仲間の存在です。同じ目標に向

かって練習し、試合前には声を掛け合い、負けたときには互いに励まし合いました。特に団体戦では、自分の負けで勝敗が決まったり、チームに迷惑をかけてしまい悔しさと責任を強く感じました。そして、上手くなって、勝ちたいという気持ちが強くなりました。

やめようかと迷うこともあったけれど、今では続けてきてよかったとおもいます。試合で勝てた時や優勝できたときは努力してきたことが形になったみたいで嬉しかったです。

そして高校二年生で近畿大会という大きな大会に出場することができました。この経験は私がいまだバドミントンを続けてきた意味を実感できる瞬間でした。諦めずにここまで続けてきた経験は結果以上に自分の自信につながっています。バドミントンを通して出会った仲間や、同じ目標に向かって頑張ったことは今私の中でとても大きなものになっています。

バドミントンは私の高校生活を充実させてくれました。これから仲間を大切にしながら、目標に向かって日々努力していきたいと思えます。

囲碁

囲碁を通して得た学び

三年 上林 凛



今年、私がかがわ総文祭二〇二五に団体戦の一員として出場しました。高校生活最後の大会ということもあり、いつもより全国から集まった選手たちの張りつめた空気に圧倒され、これまで経験したことのない緊張感を覚えました。団体戦では、個人の勝敗がそのままチーム全体の結果に直結するため、その責任の重さから、序盤の対局では思うような対局ができず、自分の敗北によって仲間の足を引っ張ってしまう場面がありました。その時は、申し訳なさや悔しさが強く込み上げましたが、仲間からかけてもらった励ましの言葉に救われ、気持ちを切り替えることができました。迎えた最終局では、これまでの反省を踏まえ、一手一手を丁寧に考えることを意

識しました。最後まで気の抜けない展開となりましたが、結果は一目差での勝利でした。自分の一局がチームの結果に貢献できたことは、大きな達成感を得ると同時に、団体戦ならではの喜びを実感する瞬間になりました。そして、チーム全員で掴み取った全国準優勝という結果は、何にも代えがたい思い出です。この全国大会に出場できたのは、応援してくれた友人や家族、先生方、遠方まで引率をお世話になった先生の支えがあつてこそだと思えます。多くの支えのおかげで、困難な状況でも前を向いて打ち続けることができました。本当にありがとうございます。

これまでの経験から、悔しい思いをして挫折しそうになることも多々ありましたが、仲間と支え合いながら挑戦することの大切さを学びました。これからはこの三年間で得た学びを活かし、囲碁の技術だけでなく、人としても成長できるように努力を続けていきたいです。

水泳

水泳をやってきて

二年 茶坂望未

僕が水泳をしていて思うことは、水泳は面白いということです。僕は三歳の頃から水泳を始め、気がつけば十年以上ほぼ毎日クラブ



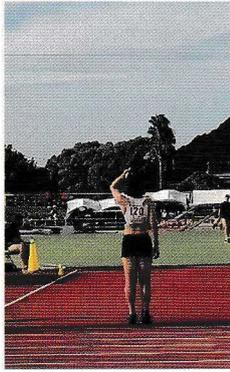
チームで水泳をしてきました。水泳は単なる習い事ではなく、自身を成長させてくれました。しかし、順調なことばかりではありませんでした。努力しても思うように記録が伸びず、周囲と比べて落ち込むこともありましたが、特に練習が厳しくなる時期には、気持ちが折れそうになり、つらいと感じたこともありましたが、それでも一緒に厳しい練習をしている仲間や、応援してくれている家族のおかげで頑張ることができました。府大会を目前に控えた時期には、毎日ドキドキしていました。一つ一つのメニューに集中して取り組みました。その努力が実を結び、近畿大会に出場することができました。水泳をやってきて学んだことは、たくさんあります。一つはあいさつや礼儀をしつかりすることです。先生に挨拶をしつかりすることを厳しく言われていたおかげで、いろんなところでも挨拶ができるようになったと思うし、あいさつの重要さも学びました。二つ

目は、感謝をするということですが、自分一人では、何もできないし、家族や仲間や先生のおかげで楽しく水泳ができていくということを感じました。水泳を通して、継続することの大切さと、努力することの大切さを学びました。何よりも、十数年も、水泳を続けられていくのは、水泳が好きだからだと思います。ですが、水泳をできるのも半年もなく、もうすぐ引退です。最後の府下大会で、近畿大会に出場できるように頑張りたいと思いますし、悔いの残らないように一日一日の練習を大切にしたいと思っています。また、勉強も頑張るようになりたいです。

陸上競技

私の心の支え

二年 清水 水遙乃



私は中学校から陸上を始め、高校生になって専門種目を短距離からやり投げに転向しました。単純に短距離だと競技人口が多く上を目指すには厳しい道だったからです。最初は大好きな陸上を思い切り楽しめたら良いなという軽い気

持ちだったのですが、少しずつ記録が伸びていくうちにもっと上の大会に行きたいと思うようになり、でも高校生になって練習に打ち込めば打ち込むほど、怪我に悩まされ、メンタルも安定しないことが増えました。

そんな中でも私が今陸上を全力で楽しめているのは、家族や顧問、部活の仲間たちの支えがあるからです。

私が「上を目指したい」と言ったとき一番応援してくれたのは両親です。栄養面、体調面など活動の基本となるところを今も支えてくれています。どんなローカルな大会でも必ず足を運んでくれて自分の競技を見てくれるとても優しい人たちです。

上の大会を目指すにあたって技術面で協力してくださるのが顧問です。それだけでなく、私が一時期入院していた時も私の第二の両親として様子を見に来てくれました。もちろん練習はスパルタで辛いメニューばかりだけど、私が近畿で戦えたのは確実に先生たちが背中を押してくれたからだと思います。

そして何より仲間の存在が私の陸上生活を楽しくしてくれます。大事な大会の決勝で皆が応援に駆けつけて来てくれた時はとても心強かったです。皆は自身の記録の更新に励むだけでなく、誰かのために全力を尽くしてくれる優しいだけじゃ言い切れないほどに心が

温かいかけがえのない存在です。だからこそ私はそんな皆に恩返しをしたいし、皆の可能性を広げてあげたいと思ったから日々の練習を地道に頑張っています。

来年は最後の1日があります。自分の高校陸上の終わりが近づいているのは寂しいですが、目標を達成するという強い想いを胸に、どんな練習も果敢に挑戦していきます。そして大好きな仲間と一緒に最後まで駆け抜けます！

日進月歩

二年 小山 悠太

僕は高校生になって初めて陸上競技部に所属した。中学生の時は卓球部に所属していたので、新しいことに挑戦したいと思い、陸上競技部に入ることを決意した。

陸上初心者の僕にとって、一年生の頃は部活を休み気味だった。慣れない練習がとてもしつこく周り比べて運動神経がずば抜けて良いわけでもなく、筋肉があるわけでもない。腕の筋力はもやし同然。体重も50kg台でガリガリだった。だが、棒高跳びは続けたかった。足は遅い、肩は弱くて投げられない。それでも跳びたい。その気持ちだけは人一倍強かった。

そんな僕が一年生の頃は何もできなかったのに対して、今ではほんの少し成長したと実感できるようになった。足の速さも一年生の頃よりも速くなり、腕の筋肉

も「もやし以上」に成長した。体重も60kg台になり、身体作りの面でも成長を感じている。今ようやく少し練習についていけるようになった。そして、精神面でも成長した。あんなに辛かった練習も徐々に楽しいと思うようになっていった。

そしてついに近畿大会に進むことができた。これは自分の実力だけで得た結果ではない。仲間の応援があったからこそ、ここまで頑張ることができたのだ。仲間には感謝の気持ちでいっぱいだし、僕自身も仲間を応援して支えたいという思いが強くなった。

今年の目標は、両丹のインターハイ予選で3m10を跳ぶことだ。この目標は先生と約束した、何かなんでも達成しなければならぬ大切な目標で、そのためにはまだまだ努力が必要だ。いつか、こまめに来たんだと胸張って言えるように、僕は仲間と一緒に努力することを諦めない。そしてどんな時でも謙虚に、自律と自立を身につけられるよう歩き続けていく。ここが出发点。今もこれからも、不器用なりに前へ進み続けたい。

全ての日が糧に

二年 新宮 徹也

僕は高校に入って初めて棒高跳びというものに出会いました。元々陸上競技部に入っていました。棒高跳びとは何の縁もありませ



んでした。しかし高校に入って棒高跳びを見始めた時にその魅力に惹きつけられました。

それから僕は真剣に棒高跳びを研究し、あることに気が付きました。それは単に跳ぶ力を鍛えれば良いというわけではないということです。棒高跳びは跳ぶ力だけでなく、走る力、上半身を使って棒を扱う力、空中動作などが全て組み合わさってできているということです。その上、高さへの恐怖や失敗への怖さにも立ち向かわなければいけません。棒高跳びをする上ではやるべきことがたくさんあるのです。そのため、一つ一つの要素を見極めながら努力を積み重ねることが重要なのです。僕はそういうことを一つ一つ向上させていき、一日一日の練習を積み重ねてきました。そうしたことでの今回の近畿大会出場に繋がったのではないかと思います。

僕が練習の中で一番良かったと思った瞬間は失敗から学びを得られた時です。ビル・ゲイツの言葉に「成功は最低の教師である」というものがあります。失敗から学ぶことが重要で、成功に溺れず、常に問題意識を持ち続けることが

重要だということです。誰だつてうまく行かない日があるし、失敗続きの時もある。そんな時こそその失敗の原因やなぜ成功できていないのかを冷静に考えて、その改善に向かう姿勢をとることが大事なのだと思えます。失敗があつた日も成功した日でもその全ての日が糧になると僕は信じています。

この話は棒高跳びだけに関係することではなく全てのことには当てはまると思えます。失敗はあり得ないというマインドを捨て日々の生活を送ることが成功への鍵だと思います。

僕も今回の成功に溺れずにひたむきに努力を続け、失敗から学び、二度目の近畿大会出場を目指して頑張りたいと思えます。

感謝の近畿ユース
一年 川口 遥佳

私は夏に目指していた近畿ユースにできました。初めての近畿大会はとても怖かったし震えました。普通近畿ユースは各県三位以内に入った人が出られる競技です。ですが私は三位以内に入っていないですがランキングとは別に設けられる特別出場枠で出ました。特別出場枠だったので大会本番ピットに入る時に私が出ていいのかと思いましたが、私はいつものように、いつもの感じで跳ぼうと思いましたが、知っている人が少なく、出たことのない会場、会場にピリつき

があると改めて感じいつも通りに跳なかつたです。棒高跳びは三回チャンスがあります。一回目、二回目でその高さの挑戦者はいなくなり三回目の挑戦者は私だけでした。これが跳べなかつたら私は終わってしまうと良くない方に考えてしまうこともありました。三回目を跳ぶ前、コーチ席で先輩や先生からアドバイスをもらつたんですがその時に先輩から「さっきのは惜しい次は跳べるよ。」や「頑張れ！いける！」って応援してもらいました。その言葉を信じて跳んだらバーには当たりましたがバーは落ちませんでした。その瞬間先生や先輩が喜んでくれました。次の高さのバーは跳べませんでした。記録はなんとか残すことができました。応援の力はすごいです。応援は信じててもデメリットはないと思うので信じてください。今回の大会では自分の弱さが出た大会だとわかりました。それから私は先輩や先生がいなかったら本当に跳べないまま終わつていたと思えます。感謝しかありません。

今年特別出場枠じゃなくて三位以内に入り戦える状態になつてから出場したいです。そして今年も大会がいっぱいあります。仲間の誰かが緊張しすぎていたり、負けそうになつて焦つていたら安心させられるような言葉を言つたり自信を取り戻せるような言葉をかけたいと思いました。



部活動実績

全国大会

囲碁将棋部

上林 滯 (3年)
第49回全国高等学校総合文化祭
囲碁部門団体戦 準優勝

近畿大会

水泳部

茶坂 望未 (2年)
第9回近畿高等学校新人水泳競技会
400m自由形出場

バドミントン部

谷口 莉愛 (2年) 飯田 羽海 (1年)
第72回近畿高等学校バドミントン選手権大会
女子ダブルス 出場

陸上競技部

第58回近畿高等学校ユース陸上競技対校選手権大会

清水 遙乃	2年女子やり投げ	出場
小山 悠太	2年男子棒高跳	出場
新宮 徹也	2年男子棒高跳	出場
川口 遥佳	1年女子棒高跳	出場

第78回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
近畿地区予選会

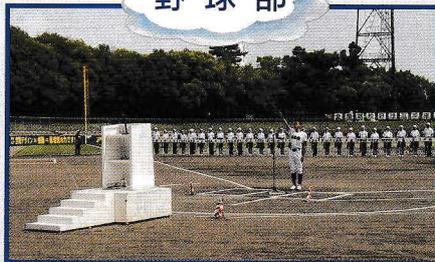
植村 周平	男子ハンマー投げ	出場
-------	----------	----

料理部



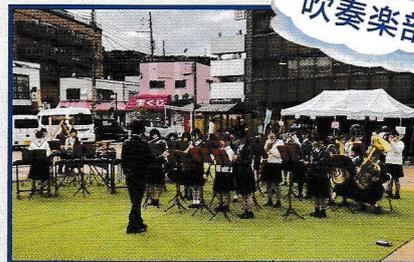
プラザサロン にこにこボランティア

野球部



選手宣誓

吹奏楽部



広場フェス

書道部



みずなぎ鹿原学園 パフォーマンス

ボランティア部



打ち水大作戦

